世界の見方

WHO総会 台湾の参加支持を

謝長廷・台北駐日経済文化代表処代表

しゃ・ちょうてい　台湾大学を卒業後、日本の京都大学大学院に留学。弁護士を経て台北市議会議員、立法委員（国会議員）、高雄市長、行政院長（首相）を歴任。2016年6月から台北駐日経済文化代表処（大使館に相当）の駐日代表（大使に相当）。台北出身。

健康は国境を超越する普遍的価値である。世界保健機関（WHO）は憲章で「人種、宗教、政治信条や経済的・社会的条件によって差別されることなく、最高水準の健康に恵まれることは、あらゆる人々にとっての基本的人権のひとつである」とうたっている。

WHOの年次総会（WHA）が今年も5月にスイス・ジュネーブで開催される。台湾は2009年より8年連続でオブザーバーとしてWHO総会に出席していたが、昨年は台湾に招待状が届かず、WHO総会に出席できなかった。国連は「持続可能な発展のための2030アジェンダ」に向けて第70回国連総会で「誰一人取り残さないことを誓う」と決議したが、台湾がWHOから取り残されていることは、その理念に反していないだろうか。

台湾はこれまで、WHO総会および関連する技術的会議や活動に積極的に参加してきた。今後もWHOの方針に沿って、世界の防疫ネットワーク強化など世界の人々の健康の向上のために貢献していく所存である。そのためにもWHO総会に出席し、各国と同様に世界の医療・公衆衛生に関する最新情報を共有することが必要である。

WHOは、世界のあらゆる人々の健康水準を引き上げるための一つの方法として、必要な医療にアクセスできるようすべての人をカバーする「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」の推進を掲げている。台湾では、全国民をカバーする健康保険制度がすでに実現し、保険のカバー率は99・9%に達し、しかも医療費用が国内総生産（GDP）に占める割合は約6・3%に過ぎない。台湾はWHOおよび各国にこれらの経験を伝えたい。

台湾はかつての国際援助を受ける側から近年では国際支援を提供する側となり、多くの国に医療・防疫の技術やノウハウを提供し、世界の人々の健康向上に取り組んでいる。台湾がWHO総会および関連活動に参加できれば、さらに各国と経験を分かち合える。リアルタイムの通報、疾病情報の取得、並びにグローバルな保健に対する貢献ができるようになれば、台湾、WHO、国際社会のいずれにもプラスとなる。

台湾は東アジアの交通の要衝に位置し、日本とも隣接している。東アジアで伝染病が流行した場合、その感染拡大を食い止めるには迅速な情報共有と国際協力が欠かせない。感染拡大を初期段階で封じ込めれば多くの命が救われ、封じ込めに失敗すれば多くの命が犠牲になる。15年前、東アジアで重症急性呼吸器症候群（SARS）が猛威を振るった際、WHOから情報が提供されなかった台湾は対応に困難を極めた。今後、非協力による犠牲が二度と起きないよう、台湾を防疫の空白地帯としてはならない。

台湾のWHO総会へのオブザーバー参加に対して、日本政府および超党派国会議員による「日華議員懇談会」、並びに各界のご支持をいただき、深く感謝している。今年のWHO総会が「誰一人取り残さない」という目標を達成できることを心より願っている。（寄稿）